

英語科学習指導案

日時	平成16年11月10日(水)		
学級	3年2組(男子16名 女子17名 計33名)		
場所	基本コース	3年2組	
	発展コース	3年3組	
指導者	基本コース	教諭	高橋 恵
	発展コース	講師	曾我 真介

1 単元名 Unit 5 Video Games | For or Against? (東京書籍 New Horizon Book 3)

2 単元について

(1) 教材観

Unit 5は、「テレビゲーム」を話題にしている。中でも、生徒が関心のあるもの、しかも適度な英語のレベルで話せるものとして、格闘ゲーム(fighting games)についての議論(discussion)を主眼としている。Starting Outではゲーム内のキャラクターの紹介、Dialogでは格闘ゲームをめぐる親子の対話、Reading for Communicationでは格闘ゲームの悪影響の有無をめぐるインターネットの掲示板でのさまざまな議論、と展開されている。今ではテレビゲームは子どもたちにとって身近な存在であり、話題でもある。しかし、テレビゲームや映画の暴力表現が与える悪影響の有無が、子どもたちを取り巻く社会の重大な関心事の1つになっていることから、議論のテーマとしては今日的なものである。自分なりの意見を持ち、それを英語で表現しようとする力を養いたい。

言語材料としては、「現在分詞及び過去分詞による後置修飾」と「間接疑問文」を扱う。後置修飾は、既習事項の受け身や進行形の文を導入に利用しながら、次の単元で学習する関係代名詞につなげるステップとしていきたい。また、間接疑問文は、学習指導要領では「理解の段階にとどめる」となっているが、疑問詞を用いた直接疑問文は、be動詞と一般動詞の混乱により、生徒たちにとってなかなか定着できていないように思われる。そこで既習事項の復習も取り入れながら、文の形・意味・用法が確実に理解できるよう指導していきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は明るく元気で、英語学習にも意欲的に臨んでおり、音読やペアでの活動に積極的に取り組もうとする態度が見られる。また、物怖じせずに普段から英語を進んで使おうとする生徒や、外国の文化に興味・関心を持っている生徒も多い。反面、書くことに抵抗を感じている生徒や、理解や作業に時間がかかる生徒など、個別支援を必要としている生徒もいる。家庭学習が不足がちな生徒も見られる。本単元に関わる既習事項としては「現在分詞(進行形)」「過去分詞(受け身形)」「疑問文(疑問詞)」が挙げられるが、レディネステストの結果、分詞の理解、特に過去分詞が使われている受け身形の文の定着が低いという実態がある。そこで、少人数指導や個別支援を行い、基礎的・基本的な学習事項の定着を図り、学習の達成感を味わわせたいと考える。

3 「基礎・基本の確かな定着」を実現するための指導構想

本校の研究主題「基礎・基本の確かな定着を図る指導方法の改善」をふまえ、英語科では研究目標を「コミュニケーション能力の育成に向けた基礎・基本の定着の在り方～習熟度別少人数指導を通して～」とした。

本単元では、Starting Outで扱われている文法事項の定着が低い、という実態を受け、Starting Outで、習熟度別に「基本コース」「発展コース」の2グループを編成した少人数指導を行い、個に応じた指導をする。今年度3年生における少人数指導は今回が4回目である。以前の取り組みでは、「内容がよくわかった」「気軽に質問ができた」「文法が理解できた」など、生徒たちから好評であり、特に基本コースの生徒からは「また少人数で学習したい」という、少人数指導に好意的な声も出ていた。また、事前・事後テストや定期テスト等の結果からも、少人数指導の成果が見られた。そこで、今回も少人数指導を有効に活用し、基礎的・基本的な学習事項を定着させ、今後の学習へつなげていきたいと考える。

4 単元の目標

- (1) 格闘ゲームに対するさまざまな意見の内容や論点を正確に読み取ることができる。(理解)
- (2) 格闘ゲームに対する自分なりの意見を持ち、表現することができる。(表現)
- (3) 現在分詞及び過去分詞による後置修飾の形・意味・用法を理解し、表現できる。(言語)
- (4) 間接疑問文の形・意味・用法を理解できる。(言語)

5 単元の指導・評価計画(6時間扱い:本時1/6時間)

時	学習内容	評価規準				評価方法
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
1	Staring Out (本時)		ある人物や物について発表することができる。		後置修飾を用いた文の構造・意味・用法を理解している。	観察 学習シート
2	Starting Out			本文の内容を把握する。		観察 学習シート
3	Dialog	積極的に対話しようとしている。			間接疑問文を用いた文の構造・意味・用法を理解している。	観察 学習シート
4	Reading for Communication 1			格闘ゲームをめぐる7人の意見の内容や論点をしっかり読み取ることができる		観察 学習シート
5	Reading for Communication 2	テーマに対して自分の意見を持ち、まとめようとしている。	自分自身の意見を持ち、言ったり書いたりすることができる。	格闘ゲームについて考え、本文の内容を正確に把握することができる。		観察 学習シート
6	単元のまとめ				後置修飾を用いた文と間接疑問文を用いた文を理解している。	観察 学習シート テスト

6 本時の指導

(1) 目標 現在分詞や過去分詞を使った後置修飾の文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。

観 点	具 体 の 評 価 規 準		「努力を要する生徒」への具体的手立て
	A(十分満足できる)	B(おおむね満足できる)	
表現の能力	与えられた課題を手がかりや援助なしで発表ができる	与えられた課題を手がかりや援助を得て発表ができる	自己表現に至らない場合は、前段階へ戻り、再度文型を確認させるように援助する
言語・文化についての知識・理解	後置修飾を用いた文の形 意味・用法を理解し学習シートに記入できる	後置修飾を用いた文の形・意味・用法をおおむね理解し学習シートに記入している	ターゲットセンテンスを読み書きできるように学習シートを工夫する

(2) 構 想

本時は、学級を「基本コース」「発展コース」の2つに分け、習熟度別少人数指導を行う。コース分けは、進行形と受け身形の定着度を見るためのレディネステストの結果をふまえ、2コースの概略を生徒に示し、自己選択させて行った。既習事項にも触れながら、新出文型の導入をわかりやすく行い、口頭練習や言語活動を通して、文の形・意味・用法を理解させたい。

基本コースでは、後置修飾における現在分詞と過去分詞の使い方の違いを確実に理解させたい。それぞれの活動の場面では、机間指導はもちろんのこと、生徒同士での教え合いも取り入れながら、文型をしっかりと理解させたい。十分に文型を定着させた上で、カードに示された人物や物を紹介する文を作らせることで、表現の能力の育成としたい。机間巡視を行い、一人一人の理解の程度に応じた指導と評価を行っていききたい。

発展コースでは、後置修飾を用いた文の形・意味・用法を理解した上で、自己表現することを目標としたい。自己表現として、提示されたカードについて述べる活動をさせ、その活動の様子を机間巡視によって指導と評価を行いたい。よって、文型をしっかりと理解できるようパンプラクティスを効果的に取り入れ、生徒の活動の場面で積極的に取り組めるよう十分に習熟を図りたい。

(3) 本時の展開

【基本コース】

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 指導上の留意点 評価の観点 支援の方法	学習形態 資料・教具
導 入 10 分	1 あいさつ 2 Warm-up 3 学習課題の確認 「...している～」「...された～」という文の形・意味・使い方を理解しよう	既習事項を用いた英問英答を行う。 和やかな雰囲気で行う。 わかりやすく導入する。	絵
展 開 35 分	4 基本文型の形・意味の理解 5 新出文型の練習 ・基本文ドリル ・Listen / Speak ・学習シートに書く 6 言語活動 カードを並べかえて正しい英文を作る ある人や物について基本文型を用いた英文を使って説明する	現在分詞と過去分詞の使い方の違いに注意させる。 動詞の活用表を掲示しておく。 パターン練習で定着を図る。 机間指導を行い、個別に援助する。 正しく聞き取ることができたか。【挙手・学習シート】 正しい英文を言うことができたか。【観察】 正しい英文を書くことができたか。【観察・学習シート】 机間指導を行い、基本文型を確認させながら援助する。 生徒同士で教え合わせる。 いろいろな英文を作らせる。 正しい英文を作ることができたか。【観察】 机間指導を行い、正しい英文を言えない生徒には、基本文型を確認させながら援助する。 初めはヒントを与えて英文を作らせる。 人や物について正しい英文で説明することができたか。【観察】	学習シート 紙版書 学習シート CD グループ カード 個 絵
終 末 5 分	7 自己評価 8 あいさつ	本時の学習を振り返り、課題の達成状況を確認する。	学習シート

【発展コース】

段階	学 習 活 動	指導上の留意点			学習形態 資料・教具
		指導上の留意点	評価の観点	支援の方法	
導 入 10 分	1 あいさつ 2 Warm -up 3 学習課題の確認	教師と生徒の interaction を図りながら、本時の学習課題につながる Q&A を進める。 生徒一人一人が学習課題を把握し、基本文型を理解し次のステップに進む。 各自が課題を掴めたか確認してから次に進む。			
	「～している」「～された」という文を理解し、自己表現しよう				
展 開 35 分	4 基本文型の提示 5 パターン・プラクティス ・基本となる文を示す ・リズム良く練習する ・それらを声に出して読む 6 練習 ・問題を解く 7 表現 ・P.C.を提示 ・ペアワーク(英作文) ・ペアごとに発表 8 発表(代表者) ・代表して3ペアに発表させる。	今時の学習課題を、生徒がしっかり捉えられるよう板書と説明を工夫する。 こちらから答えを先に出してしまうのではなく、生徒から答えを引き出しながら進める。 文の形や決まりについて考えさせる場面を作る。 積極的に授業に参加しているか。【観察】 机間巡視を行い、説明が十分だったか確認する。 もし不十分であったならば、再度文法事項の説明をする。 机間指導で解答をチェックする。【ワークシート】 机間指導で書けていない生徒へ援助する。 基本文型を用いて作文するよう指示する。 机間巡視をしながらペアからの質問に答える 机間巡視をしながら表現の仕方(話し方)への助言をする。 会話ができたペアの所へ行き、その会話を評価する。【観察】 代表者の生徒と自分たちの発表を比較させる。 発表を意欲的に取り組んでいるか。【観察】			P.C. 学習シート P.C. 学習シート 個・ペア ペア
終 末 5 分	9 自己評価 ・本時の学習を振り返り、課題の達成状況を確認する。 10 あいさつ	代表して発表したペアと自分を比較して自己評価をするように指示する。			学習シート